

な か は ら い せ き
中原遺跡

中原遺跡は八ヶ岳南麓中央の南北に細長く伸びる尾根上に位置します。調査区は遺跡の北側にあたり、宅地造成工事及び個人住宅建築等に伴って平成27年から5次にわたり発掘調査が行われてきました。これまでの調査で周溝墓17基、土坑、ピットが発見されました。

主な出土遺物は弥生時代の壺・甕^{かめ}などで、これらの出土遺物から、いずれの周溝墓も弥生時代後期に造られたと考えられます。第5次調査(令和元年)では、方形周溝墓^{ほうけいしゅうこうぼ}に重複する土坑からこの時期の壺棺墓^{つぼかんぼ}も出土しました。

今回の調査で、八ヶ岳南麓では2例目となる弥生時代後期の周溝墓群の存在が明らかになりました。この時期の遺跡発見例の少ないこの地域にとって、当時の様子をうかがえる貴重な資料です。(北杜市教育委員会)